

第2回 議員定数等調査特別委員会 会議録

日 時 令和6年11月14日(木曜日) 午前10時02分～午前11時35分
場 所 白杵庁舎2階 議員応接室

出席委員の氏名

委員長 梅田 徳男 委 員 平川 幸司
委 員 安東 鉄男 委 員 河野 巧 ~~委 員 川辺 隆~~
委 員 戸匹 映二 委 員 匹田 郁 委 員 吉岡 勲

欠席委員の氏名

(川辺 隆)

オブザーバー

議 長 内藤 康弘 副議長 伊藤 淳

説明のため出席した者の職氏名

(な し)

出席した事務局職員の職氏名

局長 林 昌英 次長 二宮貴司 書記 原 伸行

傍聴者

(な し)

会議に付した事件

1. 調査対象事項の選定について
 2. 議員定数の調査検討内容について
 3. 議員定数以外の調査検討内容について
 4. その他
-

午前10時02分 開議

○ 委員長(梅田徳男)

前回は、委員長の選任のみだったため、今回から調査開始。

本委員会は、原則傍聴の申し出を許可する旨をお知らせ。

○ 議長（内藤康弘）

（特別委員会の設置の発議者としてあいさつ）

議員定数についての議論は、平成23年6月定例会の条例改正以降行っていなかった。

議員定数減ありきではなく、白杵市の状況や今後の社会情勢を踏まえて、委員で議論し、方向性を出していただきたい。また、議員のなり手不足が言われているので、選挙に出やすい環境を作るため、選挙公営制度についても議論いただきたい。

◎ 書記（原 伸行）

本委員会の運営について確認。

本委員会設置後に、新たな会派が結成されたため、12月定例会において、委員会の人数を変更（7人⇒8人）については議決後、新たな委員を議長が指名し、選任する予定であることを報告。

委員会後、各会派の議員用の資料については、タブレット端末で電子資料により確認できるよう依頼。

協議事項

1. 調査対象事項の選定について

○ 委員長（梅田徳男）

調査対象となり得る事項として、①議員定数、②選挙公営制度、③政務活動費、④費用弁償を挙げているが、その他の事項があれば提案してほしい、また、その他、意見を聞きたい。

○ 委員（意見）

- ・②～④の調査事項は全て協議すべき。それぞれの必要性についても考えていきたい。
- ・全てについて協議をすべきと思う。考えてみる必要があると思う。
- ・議員数の検討結果によって職員の負担が増える懸念があるため、事務局の職員数についても調査対象事項としてあげてほしい。
- ・定数を含む議員活動全体を考えるため、参考資料としてこれまでの市議会議員選挙の当選者の得票率を知りたい。

○ 委員長（梅田徳男）

- ・事務局職員数については、執行部の人事のため要望すべきでないが、現状の配置（4人）と白杵市職員定数条例で定められた数（8人）に差があるため、その差を埋める部分を調査対象事項としたい。
- ・前提としては、委員会内で委員の協議により決定していくが、内容によっては、会派へ持ち帰り取り扱うものもあり得ると考えている。

（ 協議結果 ）

調査対象事項の選定

①議員定数、②選挙公営制度、③政務活動費、④費用弁償、⑤事務局の職員数

2. 議員定数の調査検討内容について

◎ 書記（原 伸行）

（配付資料に基づき説明）

○ 委員長（梅田徳男）

議員定数について、今後どのように取り組むべきか、また、調査研究に必要な資料についての意見を聞きたい。

○ 委員（意見）

- ・議会運営のため、定数・報酬を含めて考えるべき。議会費の割合なども必要。
- ・市議会議員選挙が無投票であれば、定数を考えるべき。本来、市議会議員の数が多ければ多いほど良いと考えている。
- ・無投票の場合、削減ありきになると考えている。無投票、立候補の状況など、よその地域での定数削減のための議論のきっかけとなった理由も知りたい。
- ・無投票や得票数が少なくても当選する状況が続けば、定数削減が必要な状況。

※参考 上位当選者と下位当選者の得票状況 （別途調査）

（ 白杵市 R4 21人立候補 1位 1,496票・18位731票）

（ 豊後大野市 R3 20人立候補 1位 1,674票・18位285票）

- ・県内の議員定数18名の市の中では、白杵市が一人当たりの人口は多い。市民の多様な意見を聞き入れる、また、18小学校区あるということで、現状が適当と思える。
- ・人口の推計や市民の意見を踏まえた上で検討すべきと考えている。
- ・議員定数の検討に当たっては、複合的に考える必要がある。選挙公営制度、政務活動費、費用弁償などを積み上げ、予算内にしめる議会費の割合を考慮した上で、検討すべき。
- ・市民の意見を聞くとしても、誰を対象とするのか、どのような聞き方をするのかを充分に考えて行うべきかを考える必要があると思う。
- ・次回の市議会選挙（令和8年4月）に、検討結果を反映させようと考えれば、スケジュールもおおのずと決まってくる。市民の意見や自治会の意見、議員の意見聴取などを考慮し、計5～6回程度の検討は必要となると考えている。

○ 委員長（梅田徳男）

- ・報酬審議会から先日、回答もいただいたばかりなので、本委員会では、定数をまず検討した上で、必要に応じて、その後報酬を検討することとしたい。
- ・市民の意見を聞きたいという意見があったが、それについての委員の意見と意見聴取の具体的な方法（①意見交換会、②アンケート、③パブリックコメントを想定）について、ご意見を聞きたい。

○ 委員（意見）

- ・単純なアンケートとして行えば、議員定数を削減すべきという結果が想定される。その結果が、圧倒的なものとなれば、反映しないわけにはいかない。

- ・委員会できちんと議論し、方向性を決定し、説明した上で、市民意見を求めた方が良い。
- ・市民の意見を聞くことは大切。
- ・委員会で意見がまとまれば、意見聴取の方法としては、パブリックコメントでよいと思う。
- ・市民の意見聴取の方法としての意見交換会は、集まりやすい人が集まって意見を出す形になり平等感がないのではと感じる。
- ・パブリックコメントの場合、広く意見を求めるというものにはならない懸念がある。

○ 委員長（梅田徳男）

市民意見の聴取や具体的な方法については、本日の会議で決定する協議事項ではないので、次回以降に協議したいと思います。各会派でも意見があるか確認しておいてください。また、検討に必要な資料についても同様をお願いします。

（ 協議結果 ）

- 市民の意見を踏まえて検討する。具体的な方法は次回以降に協議する。
- 委員会で方向性を決定するため、検討に必要な資料を収集する。

3. 議員定数以外の調査検討内容について

◎ 書記（原 伸行）

（配付資料に基づき説明）

○ 委員長（梅田徳男）

今回は、事務局からの説明のみとして、次回以降協議に入りたいと思います。今回の資料以外に必要な資料等があれば、事務局にお知らせ願います。

4. その他

（ な し ）

午前 11 時 35 分 閉会

白杵市議会委員会条例第 30 条第 1 項の規定を準用し、ここに記録を作成する。

令和 6 年 11 月 14 日

議員定数等調査特別委員会

委員長 梅田 徳男